

平成三十年

第四回定例会一般質問

区政報告

千代田区議会議員

桜井ただし

平成30年第4回定例会において、自由民主党議員団の一員として一般質問をいたします。

本質問に入る前に、今年を振り返ると、大阪北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震を初め、台風21号による風災害、集中豪雨による土砂災害など、自然災害による被害が数多くありました。特に小学校のブロック塀の下敷きになって亡くなられた小学校4年生の女の子については、市は違法建築であることを認め、教育委員会は認識が甘かったと謝罪をいたしました。当区においても同様のことがないよう調査の報告がされましたが、このような事故が二度と起きることのないよう強く求めるものであります。これらの災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々にお見舞いと一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

さて、今回は、オリンピック・パラリンピックを見据え、来街者にやさしい・親切な現在地表示について質問をしたいと思います。



昨今、外国人観光客は、全国で2,400万人を超え、国内外から千代田区に來られる方々も増え続けています。まちを歩いてみると、大手町、丸の内、有楽町といったビジネス街、繁華街だけでなく、神田や麹町地区の路地裏にある名所や飲食店にまで足を運ばれる方も多くなってきて

います。先日、テレビでも同様に、有名な観光地だけでなく、人里離れた集落にまで外国人観光客が押し寄せているとの報道がありました。これは日本人の心の原点、素朴な中に本当の日本の魅力を見出したいとする思いをネットに紹介されたことで拡散したようです。

千代田区は言うまでもなく、皇居を中心としたすばらしいまち並みと歴史と文化あふれるまちです。昭和7年6月、この年は千代田区が麹町区と神田区が一緒になって誕生したこれが昭和22年ですから、15年前のこととなりますが、本区の町会は、麹町区では上二番町、下二番町、土手三番町、麹町も一丁目から十三丁目までありました。東と西の代官町、銭瓶町など52町会があり、神田区では、北甲賀町、紅梅町、神田塗師町、上白壁町など106町会がありました。

地名には鍛冶町のように鍛冶職人が集まってきたというまちの職業をあらわすものや、五軒町のよいうに5つの大名屋敷が並んでいたというまちの特徴をあらわすもの、北甲賀町のように他の地域から移り住んだことが町名の由来となるなど、それぞれに古い歴史があり、大変興味深いものがあります。このような本区にあって、

WHY?





千代田区の歴史や文化に触れたいと思えば、来街者の皆さんが皇居だけでなく、本区のさまざまな場所に行きたいと思うのは当然のことだと思えます。

さて、そのような中、最近スマートフォンや打ち出された地図情報を持って目的の場所を探している光景を多く見かけます。外国人の方が、これは千代田区の案内板を見ているところですが、現在のスマートフォンの位置情報がこれほど便利になっても、現在地が特定できずに大変ご苦労をされているようにございます。

このような状況の中、2020年のオリンピッククイヤーには間違いなく今以上に現在地を聞かれたり、目的地を案内したりするところが多くなってくると思います。そこで、現在、まちなかに現在地を表示しているものの中に住居表示板があります。

ここに写っているものは、正確に言いますと街区表示板、これより小さな表示をするものに町名表示板、住居番号表示板があります。事務事業概要の記載によりますと、千代田区においては昭和39年12月から順次住居表示が実施されましたが、



昭和55年1月の紀尾井町以降は行われておらず、住居表示板の設置も千代田区全域に至っていないとしています。

この件については、住居表示の実施をされているところも未実施のところも、当時、地域の皆様には大変なご議論をいただき、その結果が現在に至っているものと承知しております。私も当時の議会の議論がどのようにあったのかを知りたくて、当時の議事録や関係書籍を読み調べましたが、残念ながら詳細はわかりませんでした。

これは昭和40年の住居表示の新旧対照表です。これ以外に議会の議事録が議会図書館にありますけど、当時は全部手書きになっていまして、そこからもうここすらも持つてくるのがちよつとできないということで、皆さんにご紹介をすることができませんでした。残念ながらそういうことで詳細はわかりませんでした。

そこで質問をいたします。まず、住居表示と表示板の整備について、区の見解と今後どのようにされるお考えなのかお尋ねをいたします。

また、住居表示の実施状況を見てみると、23区の中で千代田区は74.1%、続いて新宿区が75.52%、そのほか23区中18区が100%、残り3区はほぼ100%に近い状況です。こ



のような状況の中、区はどのようにこのことを受けとめてらっしゃるのでしょうか、お尋ねします。



さて、私は、今回の住居表示について冒頭に取り上げたのは、未実施地区の推進でも、また現在の実施地区を戻そうとするものでも、もちろんありません。オリンピック・パラリンピックまで2年を切った今、

地域にあって来街者にとって優しい親切な現在地表示をする手段を早急に考えるときに来ているのではありませんか。千代田区内には、区の間連施設、関連物だけでも多数あります。しかし、現状を見てみると、その表示は十分なものは決して言えません。例えば、出張所や保健所などの間連施設です。

これは、万世橋出張所の玄関です。入り口にも住居表示はありません。あったのは唯一見つけましたけど、万世会館の住所でした。出張所の住所、現在地の住所ではありませんでした。

案内板についても同様であります。総合防災案内板は区内143基、設置をされています。広報掲示板は区内223基、設置されています。どちらも現住所は右上のところに書かれています。英語表記ではなく、このようにナンバー073、麴町四丁目1番地、これしか書いてありません。ここの場所がこの四丁目1番地

だということがこれだけでわかるのでしょうか。決して、字も小さく、親切な表記とは言いがたいものになっています。人にお知らせをするという趣旨で書かれたものではないことは、もうこれを見れば明らかであります。

そのほかにも活用をしようと思えば幾つもあると思います。

通りの表示板は、区内に251基設置されています。坂の由来表示板は区内に57基設置をされています。せめて区の間連施設や関連物にははっきりとした現在地表示があってもよいと思いますが、

いかがでしょうか、区の見解をお聞かせください。(スクリーンを元に戻す) また、このことは観光はもとより、災害時や緊急の対応にも絶対に役立つと思えますが、いかがでしょうか、区の見解を求めます。

最後に、オリンピック・パラリンピックのサイン計画の中では、住所表示はどのように検討されているのでしょうか、お伺いをいたします。

既に千代田区においては日本武道館では柔道と空手競技、東京国際フォーラムではウエートリフティングとパワーリフティング競技、皇居外苑では競歩競技、そしてマラソンコースとして区内



を走る計画が示されており、多くの方々が競技場へ行かれる中で、区内の神社仏閣や飲食店など、さまざまな施設に行かれる方も多いと思います。オリンピック・パラリンピックのサイン計画の中では、競技会場や施設への案内、トイレなどの案内が紹介されていますが、来街者にとって優しい親切な住所地表示はどのように行われるのでしょうか、お答えください。

また、千代田区には、区内、JR、地下鉄などの駅が62駅あります。このような交通機関の出入り口やバス停、公立、私立の学校、保育園、病院など主要施設にはご協力いただけるところが多数あると思います。あとは区長、区のやる気だけです。ぜひ来街者に優しい親切な住所表示を行って、気持ちよくおもてなしができる環境をつくるうちはありませんか。区長のお考えを伺います。

以上、区長並びに関係理事者の明快なご答弁をお願いし、質問を終わります。ありがとうございました。

○答弁

桜井議員の来街者に優しい親切な現在地表示のうち、住居表示に関するご質問にお答えいたします。

初めに、住居表示整備事業につきましては、議員ご指摘の通り現在、区の約4分の1の地域が住居表示未実施地区として残されており、住居表示法に基づく住居の案内板を設置することはできません。住居の表示に関しましては、今後も地域の実情を踏まえ

て対応していくこととなります。

次に、住居表示の実施状況に対する区の認識についてですが、実施率が上がらない理由として、昭和初期と戦後に行われた区画整理により、本区のまちの区域や番地が一定の整理がされていることや、昭和43年から導入された郵便番号制により、区民や企業等が大きな不便を感じていないことが挙げられます。住居表示実施地区と未実施地区が混在している現状は好ましい状況とは言えませんが、この住居表示の取り扱いは、先の神田冠称の実施に当たり顕在化したさまざまな課題が内包しており、慎重かつ丁寧な対応が必要であると認識しております。

次に、区関連施設などへの表示に関するご質問ですが、現在地表示は、観光や災害対策に役立つことは議員ご指摘のとおりでございます。千代田区を訪れる外国人を初めとする来街者に対して、自分の現在地を知らせるわかりやすい表示は今後求められるであろう区のおもてなしのサービスであると認識しております。これまでの経緯を踏まえ、区有施設等にとどのような工夫ができるのか、検討してまいります。

次に、桜井議員のオリンピック・パラリンピックのサイン計画に関するご質問にお答えいたします。

本区では、オリンピック・パラリンピックに向けて「千代田区公共サインデザインマニュアル」を策定し、景観や多言語化に配慮した風格あるまち千代田にふさわしい統一的なサインの整備を

進めているところでございます。来街者向けのサインとしては、既存のものでは総合防災案内板や公園サイン、文化財サインによる案内地図などがあり、周辺の情報や地図を表記しているものもございます。このほかのサインについても、住所表記が可能かどうかについて検討してまいります。

一方、オリンピック・パラリンピックの競技会場周辺や会場の最寄り駅には大会用の案内サインを特設するほか、大会スタッフによる案内や誘導等を行うこととなっております。サインの設置に当たっては、道路管理者や鉄道事業者、民間ビルなどに対しまして、住所を含む案内表示の設置等のご協力をお願いしてまいります。

また、大会期間中は主要駅などに都市ボランティアを配置し、道や鉄道などの交通情報、観光などの案内を行うこととなっております。こうしたハード、ソフト両面でのさまざまな取り組みにより、国内外から千代田区を訪れる方々に区内をよりわかりやすく案内し、目的地にスムーズに行くことができるよう努めてまいります。

答弁を受け、再度質問に立ち、あと2年を切っ



いる現状の中、区はスピード感をもって議会にもロードマップを示しながら進めていくべき。との指摘に対して、区はオリンピックまで、もう来年になればあと1年になるという認識のもと、スピード感を持ってスケジュールを示しながら対応していくとの答弁がありました。また、オリンピック・パラリンピック担当とも連携しながら、しっかりと取り組んでいくとの決意を述べました。

